

2017年4月18日

2017年度 FD計画プロジェクト活動計画

FD 計画プロジェクト・リーダー 林 容市

1. 活動目的

教員ならびに教育の質的向上を図るための方策及び恒常的な検証を推進するための全学的なFD活動推進に資する関連情報を、学内学外を問わず収集し分析を行う。これらに基づき、FD活動推進にむけた諸施策を主として学内関連会議などへ提案を行う。

2. プロジェクト・メンバー(五十音順)

泉 重樹(スポーツ健康)、川上忠重(理工)、小林一行(理工)、田中優希(経済)、須藤智徳(多摩事務部学務課)、根本雅弘(人事部人事課)、林 容市(文:プロジェクトリーダー)

3. 活動計画

1)「学びの質向上」に向けたマトリクスの作成・提案(継続)

市ヶ谷、小金井、多摩のキャンパスごとに教養・専門に分けて授業改善アンケートの結果を再分析し、法政スタンダードとしての「学びの質向上」に向けたマトリクスを作成している。2016年度は、授業目的に応じた適切な規模や形態の検討を進めたが、今年度は授業内容(教育目的)の類型化を目指し、大学全体の教育目標を主軸に、他大学の事例や大学基準協会等の資料も参考にしながら分析・検討を行う。また、FD調査プロジェクトと連携して成績評価・単位取得の観点からの情報を加え、マトリクスへの付加情報を検討する予定である。

2)「学びの質向上」に向けた教員に向けたアンケートの項目・方法の検討(新規)

従来実施されている学生への授業改善アンケートに加え、教員を対象としたアンケート実施に向けた項目の設定、実施方法の検討を行う。学生からの情報に加え、このアンケートの回答と各授業の状況(履修者数や授業種別など)や成績評価の状況(グレードの配分や単位取得者数など)との対応関係を分析・検討することを通じて、学生の学びの質を高めるための情報を提供する。

3)「ゼミ活動を対象としたFD活動」の参考としての学生向けルーブリックの提案(新規)

これまで対象となりにくかったゼミナール形式の授業を対象に、教育課題や観点の設定、評価基準や尺度の作成を行い、適切な授業運営や評価に寄与するものとしてのルーブリックを提案する。

4. プロジェクト・メンバー会議

原則、月一回の開催とし、必要に応じてメールリストを活用して審議を行う。

以上